

没後20年

ナムジュン・パイク
じゅげむ展

2026.7.19(日)-11.23(月祝)

ナムジュン・パイク展 ランダムトーク

各回 19時-20時

2026

8.22(土)

身体、映像、彫刻

山内祥太(アーティスト)

8.29(土)

もうひとつの計算

青木竜太(社会彫刻家/芸術監督)

9.11(金)

なぜ、ブラウン管を集めているのか

ホンマカズキ(株式会社エキゾチカ)

9.18(金)

メディアムとしてのネオン管・ブラウン管
(作る・使う)

市川大翔(アーティスト)

中川陽介(本展コレクション・ケア)

10.2(金)

じゅげむを企む

和多利光(ワタリウム美術館)

10.9(金)

残滓的メディアの美学

SEHWAN YANG(アーティスト・研究者)

中川陽介(本展コレクション・ケア)

10.17(土)

メディアアート作品の維持と継承

—パイク作品と歩んだ30年、これからの30年—

田部井勝彦(MeAM Inc. 代表取締役)

中川陽介(MeAM Inc. コンサベーター)

和多利浩一(ワタリウム美術館 CEO)

11.7(土)

映像は絵画になれるか?

笹岡由梨子(現代美術家)



ナムジュン・パイク《ロボットK-567》1993

ステンレス棒、アクリル絵具、アルミ皿、プラスチックケース、
金網、紙製パッド、充電器、リモコンなど

トーク開催日は、

開館時間を1時間延長し、20時まで開館します。

場所:「ナムジュン・パイク展」会場

参加方法:本展入場料でご参加いただけます。

※ 当日のみ、最初の退出時に1F受付にお申し付けいただいた場合は、
19時の再入場が可能です。

これからのコミュニケーションは、
多彩な因縁をつけることである

— ナムジュン・パイク

福岡市立美術館・松浦仁編『ナム＝ジュン・パイク展』1994より

アーティストの仕事は

未来について考えること。

ところが今、

未来図を描くというのが

なかなかむずかしい。

— ナムジュン・パイク

「ランダム・アクセス・インフォメーション」1980より

繰り返しのご参加には、

メンバーシップ入会がおすすめです。

展覧会がいつでもフリーパス、

受付またはHPにて入会受付中。

ワタリウム美術館

東京都渋谷区神宮前3-7-6

Tel:03-3402-3001

Email: official@watarium.co.jp

http://www.watarium.co.jp



WATARI-UM
The Watarium Museum of Contemporary Art

出演者プロフィール

山内祥太 (アーティスト)

東京藝術大学映像研究科メディア映像専攻修了。自己と世界との関係性や、現実と空想の裂け目を探る表現を試みている。映像、彫刻、パフォーマンスに加え、近年では「匂い」を用いたインスタレーションなど、多様なメディアを横断しながら制作を行う。今年、個展〈まだ顔になる前の緑ー The Green Before the Face〉(Gallery KTO、2026.8.29まで)を開催。

https://www.instagram.com/shota_yamauchi/

1. 山内祥太《我々は太陽の光を浴びるとどうしても近くにあるように感じてしまう。》2021
水の波紋展2021 消えゆく風景からー新たなランドスケープ
撮影:Koichi Takemura

青木竜太 (社会彫刻家／芸術監督)

人間以外の種のための技術、共有される霊性のプロトコル、合意の機械、そしてもうひとつの計算をテーマに、社会を構成する「不可視の構造」に介入し、ありうる世界を立ち上げる作品を制作する。東アジアの宇宙観による量子芸術《Alternative Computations》が第1回ナムジュン・バイク・メディアアート・フェスティバルで上映中。第25回文化庁メディア芸術祭アート部門ソーシャル・インパクト賞受賞。2026年に文化機関SHUHALLYを共同設立。

https://www.instagram.com/ryuta_aoki_/

2. 青木竜太《Alternative Computations》2026
量子リザーパンコンピューティングシステム

ホンマカズキ (株式会社エキゾチカ)

映像ディレクター、VJ、ビデオアーティスト。企業映像やMV、ライブ演出などの映像制作を手がける傍ら、福生の米軍ハウスを拠点にブラウン管テレビ、VHS、レーザーディスクなど、役目を終えたアナログ映像メディアを用い、映像のノイズや熱、存在感をテーマに作品制作を行う。

https://www.instagram.com/homma_ka/

<https://www.exotica.land/>

3. ホンマカズキ《RRRGGBBB》2026
ブラウン管テレビ、ネオン管、ビデオカメラ

市川大翔 (アーティスト)

早稲田大学社会科学部卒業。主なメディウムであるネオン管を、特有の放電発光を内包する「現象の標本」としてとらえ、外形をつくる、ガラス工芸から、真空や電気などの科学技術のエンジニアリングまで一貫して手がけるアーティスト。工芸領域では、日本有数のネオン管技工士に認定され、ネオンサイン技術の継承にも取り組む。

<https://www.electrodeart.com/>

https://www.instagram.com/electrode_taisho/

4. 市川大翔《Urban Light》2023
ネオン管、吹きガラス、キセノンガス

中川陽介 (本展コレクション・ケア、MeAM Inc. コンサベーター)

美術作品の記録、調査、保存の仕事をしながらビデオや写真を使った作品を発表。記録資料や保存フォーマット、検索システム、コレクションや納品といった美術の中の制度を流用して制作を行う。福岡市のキャナルシティ博多に設置されている《Fuku/Luck,Fuku=Luck,Matrix》をはじめとした国内のナムジュン・バイク作品の修復に携わる。

5. 中川陽介《KAMINARI》2003
DVD

SEHWAN YANG (アーティスト・研究者)

韓国京畿道出身。東京藝術大学先端芸術表現専攻修了。現在、同大学大学院博士課程在籍。ブラウン管テレビなどのアナログメディアを用い、記憶や未来像をテーマに制作・研究を行う。メディアに残存する物質性やアナログ現象を手がかりに、それらを解体・再構築した彫刻的インスタレーションを制作している。

https://www.instagram.com/s_h_99y/

<https://www.yangsehwanyang.com/>

6. SEHWAN YANG《피랑(波浪)「バラン」》2025
(東京藝術大学大学院修了作品)
木材、ブラウン管テレビ、磁石
撮影: yoh murata

田部井勝彦 (MeAM Inc. 代表取締役)

2007年、情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 修了。在学中よりメディア・アート作品の制作を行う。また美術展インストーラーとして映像やメディア技術的表現を中心に、多くの作品や展覧会施工を担う。2022年、テクニカル・ディレクターとしてシビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT] 立ち上げに参画。2025年、株式会社MeAMを設立し、メディア・アート作品の修復、保守サービスを開始。

<https://meam.st/>

7. 本展のナムジュン・バイク《ランダム・アクセス》の再現
(2026年、原型は1963年)のために改造中のオープンリール。
オープンリール改造:MeAM Inc.

笹岡由梨子 (現代美術家)

手作りの人形、自身の顔や体のパーツを映した映像、自作の楽曲などを組み合わせたビデオ・インスタレーションを制作。一度見たら忘れられないような独特の世界観を有する。今年、個展〈笹岡由梨子のパラダイス・ダンジョン〉(滋賀県立美術館、2026年)、〈暗闇をくぐってみたら Part2 笹岡由梨子展「渦巻」〉(市原湖畔美術館、2026.9.23まで)を開催。〈TOKYO ATLAS〉(2016.10.10-12.20 <https://tokyoatlas.jp/>)に参加。

<https://www.instagram.com/sasaokayuriko.works/>

8. 笹岡由梨子《タイマツ》2026
マルチチャンネル・ビデオ・インスタレーション、カラー、サウンド、ミラー、
電飾、木材に塗装、絨毯、カーテン 8分04秒
撮影: 夢生田兵吾



WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art

